



2年目を迎えた社会教育課程

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学岩見沢分校 公開日: 2017-07-07 キーワード: 作成者: 門脇, 正俊 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9155

2年目を迎えた社会教育課程

昨年の第1期生30人に引き続き、今年も第2期生30人が入学し、社会教育課程も学生60人を数えることになった。学生演習室も賑やかになり、学生たちの意欲的な取り組みも始まっている。ゼミ活動も活発になってきた。1990年10月着任の山本えり子教官（社会教育）に続いて、91年10月には佐藤知己教官（文化人類学）が着任し、社会教育と地域科学の2コースに、それぞれ専任教官が配置されたことになる。設置準備段階から社会教育課程を担当してきた小学校教員養成課程兼任の6教官に、この2人の専任教官が加わって社会教育課程運営委員会が構成され、新課程充実のために努力している。以下、今年度の社会教育課程の主な活動を紹介する。

社会教育課程1年生合宿研修が昨年と同様、6月に1泊2日の日程で、本学大雪山自然教育研究施設で行われ、第1日は、地元東川町の前社会教育主事で現在は企画調整係長の山下由紀夫氏による「社会教育と町おこし—まちづくりに果たす社会教育の役割をめぐって—」と題した講演が、第2日は、大雪山ネイチャーガイドの塩谷秀和氏の案内による植生観察が、姿見の池から旭岳温泉まで下山しながら行われた。教育学、心理学、スポーツコミュニケーション、社会科学、自然科学の5グループ（分野）の学生と教官が初めて全体で交流した合宿で、夜のコンパも盛り上がり、この合宿を契機に、社会教育課程学生としての自覚と連帯が深まったようである。その後、研究室を越えた交流が活発化している。小学校課程の関連グループと一緒にゼミや合宿等も行われた。3月には、社会教育課程在来生合同の合宿研修が砂川少年自然の家で行われ、第1日は、新しい北海道社会教育総合センター「かでの2・7」も訪問し、二つの社会教育施設についての理解を深めた。

社会教育課程では履修基準を緩和し、多彩なカリキュラムを準備し、学生一人一人の自由な選択履修を重視しているが、1・2年では一般教育が中心であり、まだ予定された専門科目は出そろっていない。それでも、新しい専門科目もかなり増え、また、ゼミ活動等も活発になった。例えば、地域科学2年の「社会教育課題研究」（油川教官）では、ゴルフ場と環境問題に関する研究を行い、その成果が「ゴルフ—その社会的及び自然的環境に係わる諸問題について—」と題した120ページを越す立派な報告書にまとめられた。「民俗芸能」（進藤教官）では、「身体表現論」の受講生とともに、その成果を「動きの饗演」と題して岩見沢市文化センターで発表したが、その充実した内容は満員の市民を魅了し、非常に好評であった。社会教育課程学生が中心になって立派なパンフレットも作成され、また、衣裳作り、照明を含む舞台設定も学生たちによって行われた。「北海道文化論」（村田教官）では新篠津村に宿泊し、村祭「青空まつり」の歴史を調査するなど、市町村の協力による地域研究も活発化しつつある。その他、本学教官や非常勤講師による多彩な講義（「スポーツヘルスコンディショニング論」「アイヌ語・アイヌ文化」「ビデオ構成法」等々）が行われ、学生たちは積極的な姿勢で受講していた。技術科の協力で情報処理教育も充実しつつある。

社会教育課程学生を対象とした情報活動も活発で、進路情報、各種の特集記事、学生の活動や発言等を掲載した「CP通信（キャリアプランニングインフォメーション）」（鹿内教官）、社会教育関係の施設や団体、催し等の紹介が多い「社会教育ミニ情報」（山本教官）等が発行されてきた。

第3期生を迎える次年度は、第1期生もシニアに進むことになる。課程全体としても、各分野グループにしても、専門科目が増え、本格的な社会教育研究が始まる。卒業後の進路の展望やその準備のための取り組みも必要になる。学校教員や学芸員等の資格取得に必要な実習の準備も差し迫っており、関係する行政機関や教育施設の助言や協力を得ながら、準備を進めて行きたい。学生達の自発的で個性的な学問研究をどう発展させるか、それを生かした進路をどのように切り開いていくかという課題に向かって、これから社会教育課程の正念場を迎えることになる。皆様からの温かいご指導ご援助をお願いしたい。

（社会教育課程運営委員長 門脇 正俊）